荒尾市民病院
- Arao Municipal Hospital -
市民を愛する　市民に愛される　病院へ
地域医療連携室だより　第18号（平成23年4月発行）

小岱

〒864-0041　熊本県荒尾市荒尾2600
相談支援センター　地域医療連携室
TEL　0968-63-1115（代表）（内線536）
FAX　0968-62-4543
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ　www.hospital.arao.kumamoto.jp/
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　bsn@hospital.arao.kumamoto.jp

ご挨拶

病院事業管理者　大嶋　壽海

新年度が始まり、さくらの宴も終わり、新緑が目にまぶしく、吹く風が心地よい季節を迎えようとしている今日この頃です。皆様いかがお過ごしでしょうか。2011年3月11日に東日本大震災が発生して、一ヶ月が過ぎ去りました。マグニチュード9.0の大地震に続く、37.9mの大津波、そして、原子力発電所事故に多くの方々が被害にあっております。被災された方々や命を失った方々のことを思うと心痛の思いです。被災地の早い復興をお祈りいたします。

さて、新年度になり、内科診療部長兼代謝・内分泌内科部長の田口哲也医師の転出に伴い、佐々木一成医師の転入と循環器内科医長の松川将三医師の転出に伴う榎本耕治医師の２名の医師の異動があった以外は、22年度と医療体制は、大きく変わりはありません。ただ、産婦人科領域においては、この4月より公立玉名中央病院の産婦人科常勤医の不在に伴い、本院が有明地域の産婦人科のセンター病院の役割を担うことになりました。数年前からは、鏡視下の婦人科手術にも積極的に取り組んでおり、お産や婦人科疾患など、よろしくお願いいたします。また、今年度も常勤の呼吸器内科医の確保はできませんでしたが、月曜（大牟田天領病院：野口真紀Dr）、火曜（国立大牟田病院）、水曜（済生会大牟田病院：高城暁Dr）、木曜（森松嘉孝Dr）、金曜（熊大呼吸器内科）と非常勤医師ではありますが、毎日外来診察が可能となりました。

今年度は、放射線治療センターの設置とそれに伴う施設の建築と放射線治療装置（リニアック）の更新を予定しており、平成23年3月28日に起工式を行い、工事に入っております。これは、本院は、国指定の地域がん診療連携拠点病院であり、がん治療の3本柱（手術、放射線療法、化学療法）の内の一つの放射線療法においては、放射線治療装置が指定に欠かせないものとなっており、老朽化に伴い放射線治療装置の一新を図るものです。平成24年4月１日のオープンを予定しています。

さて、来る5月13日にホテル・ヴェルデで、本院の「第13回地域医療連携懇親会」を予定しております。昨年は、多くの有明地域の医療関係者にご参加いただき、誠にありがとうございました。この会も回数を重ねるごとに、出席者数が増えています。最近は、周辺の地域中核病院も病診連携懇親会を開催する様になってきており、全国的に医師不足が顕著で、地域医療の崩壊が叫ばれている昨今、この有明地域の医療を支えるために、この３つの医師会（荒尾市、玉名郡市と大牟田医師会）の先生方とこの地域の各中核病院との連携は是非とも必要なものであります。また、各病院や診療所等は、お互いの機能を分担しあって、地域完結型医療を展開し、患者中心のFace to Faceの関係を構築するために、この会を利用していただければ、幸甚に存じます。

また、本院は、平成21年7月に地域医療支援病院の承認を県よりいただいておりますが、これも、ひとえに皆様方のおかげと感謝しております。これを機に、各種の研修会や講演会などを院内の地域医療研修センターを中心に開催しております。

県下では、本院に続き平成22年11月には、熊本赤十字病院と山鹿市立病院が地域医療支援病院になっております。地域医療の崩壊を防ぐには、病診連携を盛んにし、地域で発生した患者は、地域で診る姿勢が大切であります。

救急外来は、救急医（指導医）の松園Drを中心に、24時間救急患者の対応に追われております。特に脳卒中急性期拠点病院の指定のためか、脳卒中の患者さんや心筋梗塞、心不全の患者さんの救急車での搬送が多くなってきております。交通事故等の顔面の外傷等も形成外科医の素早い対応が可能であり、高度な医療の提供を行っております。

最後に、22年度の決算見込みは、2億5千万円前後の黒字となりそうです。2年続けての黒字で、経営も安定してきています。益々、地域中核病院として病診連携の輪を広げ、地域完結型の医療を目指し、地域住民を中心に、最新かつ高度で適切な医療の提供を心掛けて参ります。今後ともご支援ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

クモ膜下出血
-生死を分けるものは-

脳神経外科部長　杉之原賢治

クモ膜下出血は、脳梗塞や脳内出血と同様何らかの後遺障害が残ることがあります。しかし、全く元気に社会復帰される人がいるかと思えば、死亡する人もおられ、予後に大きな差が出る疾患です(図1)。クモ膜下出血の原因のほとんどは脳動脈瘤破裂(図2)で、その代表的な症状は頭痛です。破裂動脈瘤の問題点は再破裂を繰り返すことで、初回破裂で診断がつき根治治療ができたか否かで生死が分かれます。典型例を提示します。

症例は40才女性です。軽症ながら突然の頭痛で発症、その後深昏睡に陥り、更に当初出血源が不明で経過観察せざるを得ない状態から、再破裂を防ぎつつ、破裂動脈瘤を見つけて脳動脈瘤クリッピング術を行い、ICUでの集中治療の結果、障害なく社会復帰されました。(図3-図7)

重症クモ膜下出血は高度の意識障害を伴うことから頭部CTで簡単に診断がつきますが、軽症クモ膜下出血を見逃さないためには、頭痛診断が重要です。典型的な頭痛は(図8)の通りです。脳神経外科専門医に限らず、医療従事者であれば、患者さんもしくは友人・知人から頭痛で相談された時、「もしかしてクモ膜下出血ではないだろうか」と疑ってみてください。典型的頭痛かどうか、誘導尋問してもかまわないと思います。まだ歩いておられるクモ膜下出血患者さんを見つけて、脳神経外科専門医に送り届けてください。クモ膜下出血の典型的頭痛をが多くの人に広まることを願っています。

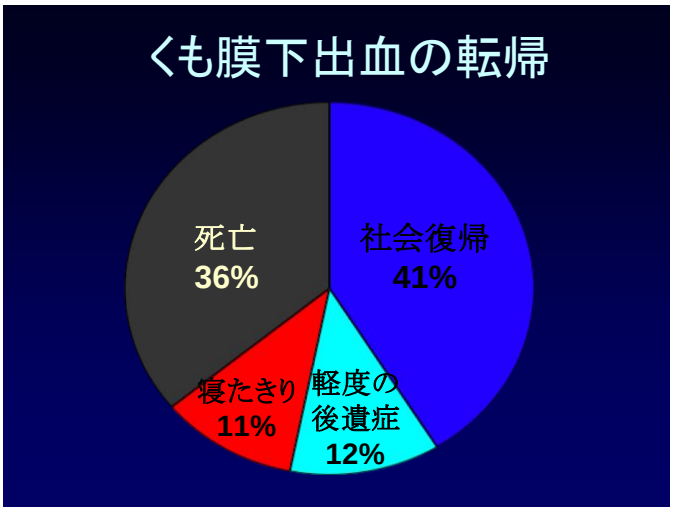

図1

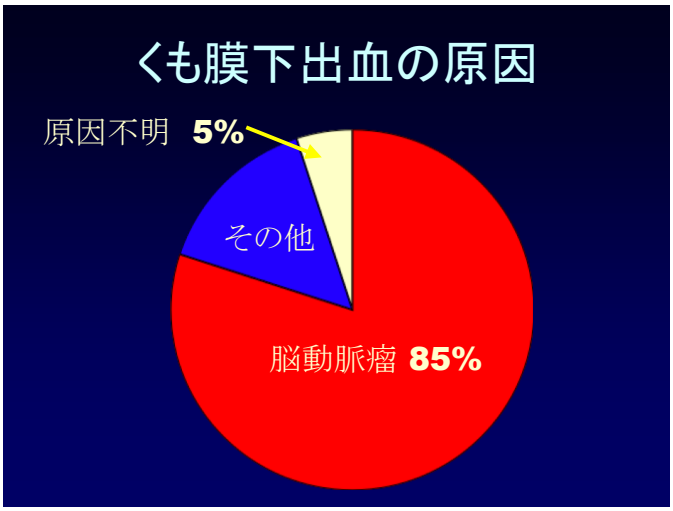

図2

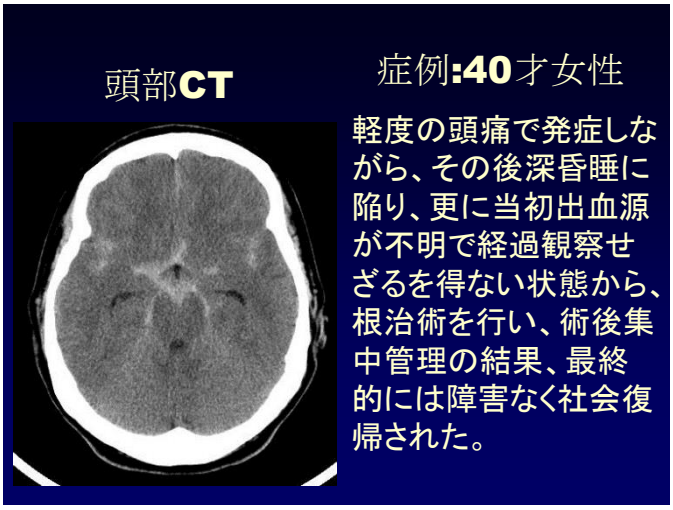

図3

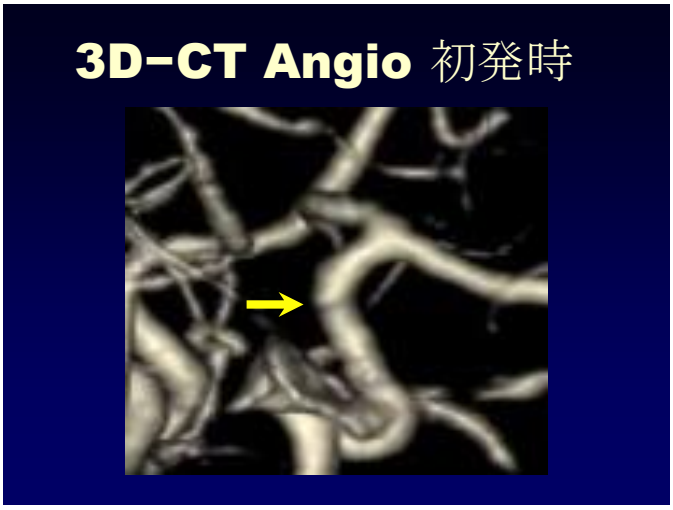

図4

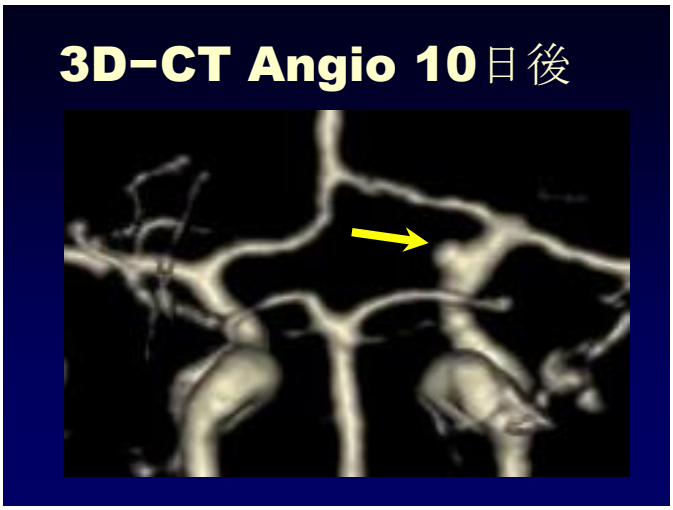

図5

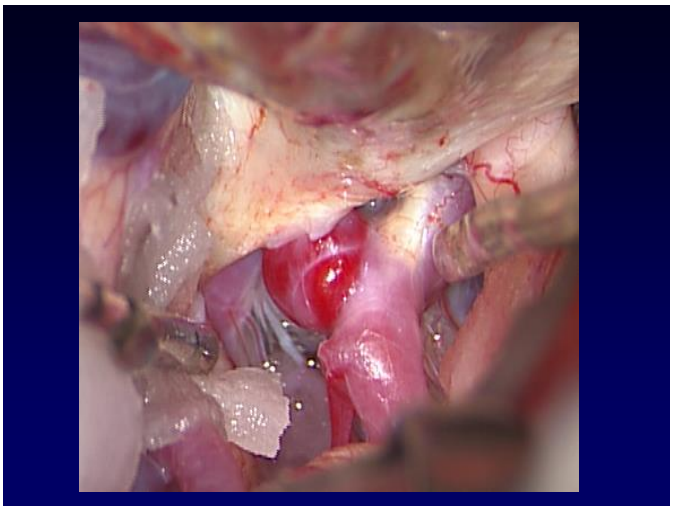

図6

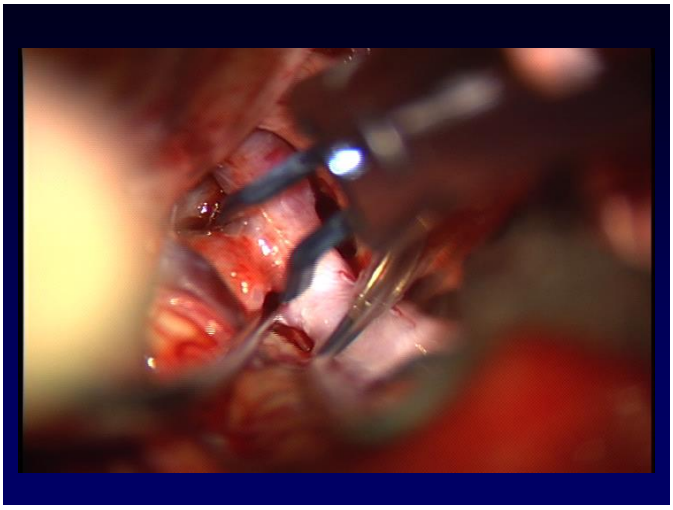

図7

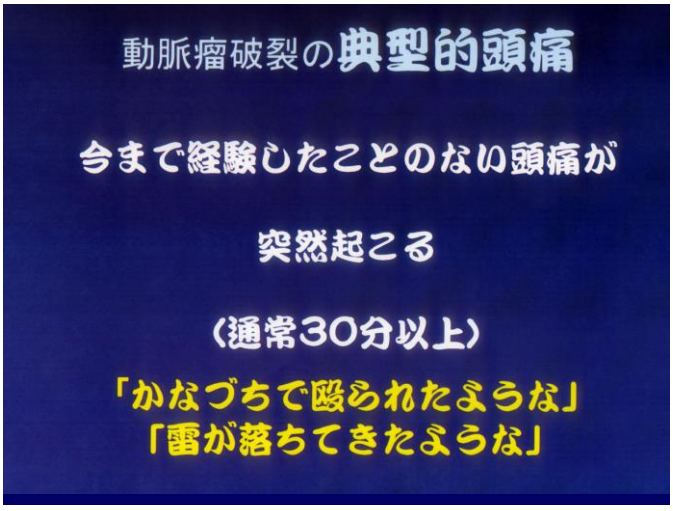

図8

新任医師紹介

佐々木　一成(ささき　かずなり)　代謝・内分泌内科科長

榎本　耕治(えのもと　こうじ)　循環器内科医師

《病院理念》

荒尾市民病院は地域住民の健康の維持、増進に努め、患者中心の安全で質の高い医療の提供を目指します。

《基本方針》

1. 地域の信頼に応える急性期医療を目指し、最善の医療を提供します。
2. 地域連携を進め、地域完結型医療を目指します。
3. 患者の人権を尊重し、暖かい心を持った医療人を育成します。
4. 効率的な経営管理を基本とし、健全な経営を目指します

《患者様の権利》

・あなたは、あなたの病気について必要な医療を受けることができます。
・あなたは、医療の内容について十分な説明を受け、十分な納得と同意の上で適切な医療を選択することができます。
・あなたは、医療の内容についてご自分の希望を申し出る事ができます。

新看護部長挨拶

4月1日より看護部長として就任いたしました西村一代と申します。日頃より地域の医療機関、福祉機関等の職員の皆様に大変お世話になり心よりお礼申し上げます。看護部長という大役を背負い、これからの自分自身の役割とは何かと考えつつ、就任からの日々を過ごしております。自分にこの大役が務まるのかと考えることも多いのですが、様々な事を試行錯誤しながら少しでも日々前進していけるよう、背伸びをせず「今の私」をだし努力してまいります。

今、医療界では医療技術の進歩や医療を取り巻く情勢によって変化を求められていると思います。荒尾市民病院は、救急を受け入れる地域の中核病院として重要な役割を担っており、地域の皆さまに信頼される病院であるために「患者さま中心の医療」を目指しています。

看護部理念「患者中心の安全で質の高い看護を提供します」のもと、病院スタッフの力を集めて病院に訪れる人々のために必要な”看護”が提供できるように、これからも、多くのスタッフに支えられながら、自分自身努力を積み重ねて毎日を過ごしていきます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

看護部長　西村　一代

地域医療連携懇親会のお知らせ

毎年開催しております、第13回荒尾市民病院主催地域医療連携懇親会を下記の日程で開催いたします。皆様のご出席をお待ちしております。

記

日　時：平成23年5月13日（金）19：00～

場　所：ホテルヴェルデ

会　費：5000円

出席を希望される方は、荒尾市民病院相談支援センターまでご連絡下さい。

編集後記

毎年、春は別れと出会いが同時にやってきます。

看護師として勤続３０年が過ぎ、一人また一人と仲間が退職していきます。淋しい気持ちなりますが、今年度もフレッシュさを忘れずに、患者さんへの支援や連携業務に取り組んで参ります。また、この『小岱』では、これからも新鮮な情報をお届けできればと思っています。

今まで出逢った人も、これから出逢う人も、ご縁を大切にしたいなぁと思う今日この頃です。相談支援センターの仲間達の顔ぶれは今年度もいっしょです。どうぞよろしくお願いいたします。

相談支援センター　村上